

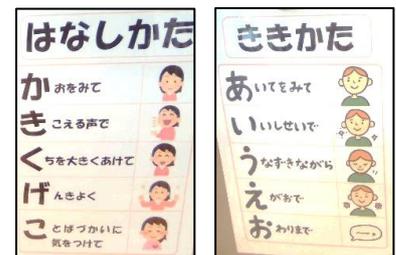
7月12日（水）、2年3組で国語科・図画工作科の努力点公開授業が行われました。単元は「うれしくなる言葉」です。図画工作科で制作した作品を互いに鑑賞し、そのよさを「うれしくなる言葉」を使って伝えることがめあてです。

初めに、国語科で学習した「うれしくなる言葉」について振り返りました。「うれしくなる言葉」は、言われた方はうれしいし、言った方も気持ちがよいというよさがあります。事前にたくさんの「うれしくなる言葉」を集め、短冊にしました。

そこで、教師が、「どのように言うと伝わるかな」と問いました。すると、児童は「詳しく言う」と発言したので、教師が「どれくらい詳しく言うとよいか」とさらに問いました。すると、他の児童が「〇〇が△△で、□□だ」と、話型を示しました。他にも、「話し方『かきくげこ』」と発言する児童もいました。2年生では、学年で「話し方『かきくげこ』」「聞き方『あいうえお』」というものを教室に掲示し、努力点の目標を達成するために工夫しています。



【言葉を確認する様子】



【話し方、聞き方を示した掲示物】

次に、鑑賞ツール「見て見てカード」「いいねカード」の説明をしました。二つは表裏になっていて、鑑賞をする際にどこを見てほしいか、どこがよいのかを指し示すときに使います。これにより、より伝わりやすくなります。その後、教師と代表児童でデモンストレーションを行いました。教師が「見て見てカード」を使って作品の紹介をします。そして、代表児童が「いいねカード」を使って作品のよさを伝えます。鑑賞の仕方が分かったところで、いよいよ鑑賞会の始まりです。児童はうずうずしている様子でした。

鑑賞会を始めると、児童は活発に話し始めました。まずは、隣の友達とペアで鑑賞をしました。互いに見てほしいところや作品のよいところを話しました。「〇〇（動物）みたいにもふもふの毛を使っていいね」「ふふふ（うれしそうに）」といった会話がそここに聞かれ、温かい雰囲気になりました。中には、作品を褒めてもらって「ありがとう」と言ったり、作品のよさについて詳しく語ったりする児童もいました。



【ペアで鑑賞し合う児童】

最後に、4人グループになって、同じように鑑賞会を行いました。さらに、多くの友達から作品を褒めてもらい、どの児童も満足気でした。

「うれしくなる言葉」を使って話すことで、教室中が温かい気持ちで包まれました。教師が、「普段からよい気持ちになる挨拶や話し方をしましょうね」と話すと、授業の終わりの挨拶では、どの児童も気持ちのよい挨拶をすることができました。話すこと・聞くことをはじめ、国語科で学習することは、他教科等の土台になります。今回の授業のように、授業で学んだことが、日常生活に生かせる授業をこれからも追究していきたいです。